

農

未来の
日本を創る

農業
担い人

THE FUTURE of
JAPAN CREATE

PROFILE

しまだ みさき 28歳

島田 美咲 さん
SHIMADA MISAKI

きまた まさあき 25歳

木全 正晃 さん
KIMATA MASAOKI

あま市 蜂須賀

家族で力を合わせ 多品目の栽培に挑む若手生産者

あま市蜂須賀で約50ヘクタールの圃場を管理しながら、米や麦、トマト、露地野菜など計13種類を栽培する「キマタ農園」。そこで中心となって農業に励むのが、就農6年目の島田美咲さん（姉）と、就農3年目の木全正晃さん（弟）です。祖父母と父、従業員を含む計8名で多品目の栽培に取り組み、愛知県内のスーパーなどで新鮮な農産物を販売しています。

幼い頃から家族が農業に携わる姿を見て育った美咲さんは、高校や農業高等学校で学んだ経験と「農業は始まりの職業だ」という恩師の言葉を胸に就農を決意しました。また、正晃さんは会社社に勤めていましたが、転身して農業の道へ進みました。現在は、家族から様々なことを教わりながら栽培技術を学んでいます。

2人が農業に取り組む中で最も大切にしていることは「鮮度」です。収穫から袋詰め、店頭まで並ぶまでを自分たちが一貫して行うことで、朝採れの新鮮な野菜を届けています。美咲さんは、減農薬栽培やトマトの完熟収穫、効率化のための機械導入にも努めています。正晃さんも「購入してくださる方に満足してもらい、選んでもらえる野菜を作りたい」と話し、顧客満足度の向上を目標に掲げます。

今年の生育状況について、2人は「お米はカメムシなどの被害は少なかつたものの、猛暑の影響で高温障害が多発した」と話します。来年は品種の選定をして対策を試み、日常的に試行錯誤しながら栽培に取り組んでいきます。一方、「トマトは順調に育ち味も濃くなっている」と笑顔を見せます。露地野菜も、多くの収量が見込めるそうです。

10年後には「スマート農業やデジタル技術の導入による生産性向上と、資源の無駄を減らし環境に優しい持続可能な農業を実現したい」と熱い想いを語る美咲さん。正晃さんも「自分で判断して肥料や水の管理をできるようなするともに、今後の人手不足対策として機械化を進めたい」と意欲的に話します。すでに昨年からドローンを導入するなど実践を始めたことで、作業時間の短縮が実現しました。さらなるドローン作業の最適化を目指して、日々努力を重ねています。

最後に「朝収穫した野菜を、その日のうちに店頭に並べています。安心して食べてもらえる新鮮な野菜をこれからも届けます」と2人からメッセージをいただきました。

